

## 【出題内容】

□ 2008(07)～2016 まで傾向変化なし:①長文空所補充 ②長文内容確認 ③文補充問題 ④会話 ⑤1文要約

		2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008
I	長文空所補充問題A	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	長文空所補充問題B	7	7	7	7	7	7	7	7	7
II	長文内容確認問題A	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	長文内容確認問題B	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	長文内容確認問題C	5	5	5	5	5	5	5	5	5
III	長文空所文補充問題	7	7	7	7	7	7	7	7	7
IV	会話問題	7	7	7	7	7	7	7	7	7
V	1文要約(英語)	1	1	1	1	1	1	1	1	1

文学部・文化構想学部になった2007年から出題形式だけでなく、各設問数も全く変化がない(慶応大SFCなども同様)。大学が学生に求める英語力がついていないとも言えるが、英語学力に差がなければ、練習量の差がそのまま得点率の差に反映され勝負を分けると言える。

□ **長文空所補充：** 長文形式ではあるが、語彙・語法の問題が多い。文脈を考えながら適切な語句を選択するが、中には難しい単語もあるので、「英語⇒日本語」レベルの習得語彙数は「速読英単語（上級編）」や「リングメタリカ」レベルであることが望ましい。もちろん、「受験生の常識レベル」の問題を落とさないことが重要。

慶応大(商・理工・法\*など)のように、「日本語⇒英語」「派生語」のレベルは直接求めているが、長文の中で問われる語彙力なので、派生語や語形変化の学習をしておくと、第3の学力である「カン」が働くので有利。12/14以上が望ましいが、難易度が高い年度なら9/14程度でも他の問題で挽回は可能だろう。

□ **長文内容確認：** A(短い英文) B(2段落程度:New Treasureの1 Section程度) C(長めの英文)の3題。慶応大のようにパラグラフごとにスキミングし、消去法で解いていくタイプのものが中心だが、全体の要旨を自分の頭で論理的にしっかりとまとめる能力がないと解けない問題もある。センター長文の4択問題から徐々にレベルを上げて練習量を積んでおけば満点近くを狙えるレベルである。ここでの取りこぼしは痛い。

- **文補充問題:** **早稲田大・文、文構を受験するなら避けては通れない問題合否を分ける問題!** 段落整序と同様 Logical Reading の力が必要で、Reading Power などの教材で基礎を身につけ、早いうちからセンター試験(2013 年以前)レベルで練習して、高3の夏以降過去問題を全てやって練習するといった対策学習が出来るようにしておこう。練習量をこなしたい人は
- センター(2013 以前)⇒ 上智大 ⇒ 中央大 ⇒ 早大・東大(IB)**
- の順に徐々にレベルをあげて練習するとよい。

- **会話問題:** 過去の慶応大の会話問題には意地悪な問題も目立つが、早稲田の問題は学部を問わず大半が基本的なレベルなので、まずはここで落とさないことがカギ。選択肢が全て動詞といったタイプの問題ではないので、本文を読みながら選択肢のグルーピングをしておくことで解答時間を節約出来る(慶応大・法の語義選択問題と同様)。ただ、中には口語表現の知識や高めのレベルの熟語の知識を問うものもあるので注意。分からなければ時間をかけ過ぎず次の問題に行く勇気も必要。Vintage を超えるレベルの前置詞・熟語の学習にはあまり時間をかけられない(国社の学習時間確保)人も多いだろうが、「ネイティブスピーカーの単語力」(研究社出版)などで、「動詞」「前置

詞」をビジュアルで解説してある本を通学時に読むなどで感覚を鍛えておくだけで、得点力にはかなりの差が出る。

- **長文問題出典：** 特に時事英語という訳ではないが、特に文学部では時事英語というよりはアカデミックな長文が出題されることもあり、「文学や芸術論なんて興味なし」という学生には難しく感じてしまうものもあるだろう。例年文化構想学部に比べ、文学部の方が受験生平均が低いのは文学部の長文の内容の差が大きいのかもしれない。また、作問が少し雑な面があり、英語的に間違っている表現もあるが戸惑わないこと。
  
- **1文要約** 高校1年次に1クラスに在籍していた人は、1年次のセミナーで既に方法論は学んだはず。“in your own words”「自分の言葉で」とあるので、本文中の語を全く使ってはいけなさと勘違いする受験生もいるようだが、そんなことはない(もしそうなら、the/aすら使えなくなる)。求められているのは、以下の2つ。

- ① 論理的思考力を駆使して、「抽象・具体」「主張・理由」などの観点から英文全体の要旨をまとめる能力
- ② 本文で使われている英語を参考にしながら、「文法の書き換え問題」などで習得した英語表現を運用する能力

New Treasure などの予習段階で、パラグラフの要旨を英語でまとめてみるといった学習が自主的に出来ていると直前に慌てることはない。なお、解答欄から推測される理想的な解答の語数は約 30 words(ただし年度による)。「一文要約」の解法をまとめた教材を作成してあるので秋以降学習するとよいだろう。

#### □ 他学部・他大学の問題との相関

I. 長文空所補充 II. 長文内容確認 については、センター試験を含め、どこの入試問題でも見られる形式。  
III. の文補充問題は、東大その他の国公立大でも見られる出題形式なので、国公立大受験者は早稲田の文・文構を受験しなくても、問題集代わりに過去問を活用すると練習になるはず。早稲田レベルが難しいと感じる人は、前述したように「センター試験の過去問」⇒上智・中央⇒東大・早大とレベルを上げるのがよい。会話

**問題は早稲田の他学部でも出題されるので、対策として取り組んでおくべき。文・文構の会話は Logical なスキルを試している面もあり、他学部とコンセプトが多少違うが、昔の慶應の会話ほど意地悪でもない。**

**一文要約以外はマークシートなので、慶応大・経済・文・医などの問題に比べると国公立大の記述問題との相関は低い。ただ、政治経済学部などに比べると、Ⅲの文補充のような問題もあるので、対策学習が重なる部分もある(東大IBと酷似)。**

# 早稲田大・文・文構 勝利の方程式

- ① 会話問題は満点を目指す！ここで落とさないことがまず第一関門突破のカギ！
- ② II. の長文読解はパラグラフ・リーディングと消去法が基本。A、Bで落とさない基礎力を！
- ③ 受験生平均が高なくても、慶應と違って合格点は高いので注意！
- ④ I 文要約は怖がる必要はない。30words 程度は書こう！秋以降に対策教材を配布！
- ⑤ 最大の難所はIIIの文補充問題。ここで長めに時間を取れるようにI・II・IVでの解答時間短が出来ることが重要！
- ⑥ 受験生レベルは実学系に比べ高くない。対策学習にそれほど時間はかからないので、実学系志望の学生も滑り止め学部として一考の余地あり。
- ⑦ 文・文構に限らず、早稲田は3教科バランスが勝負！英語だけ得意では勝負出来ない！
- ⑧ 理想的な解答時間は①10分②35分③20分④5分⑤10分で80分+見直し10分。
- ⑨ 合格最低点は、文はここ3年(2012-2014)でほぼつしがなく64%弱、文構は63.9/62.6/62.1  
受験者平均は文(46.1/59.9/49.8)文構(59.1/56.9/51.0)。英語が得意なら7割以上、苦手でも6割前後は欲しい。

※ ただし、2016年の定員超過抑制、2017年には加えて英語資格試験導入による一般試験定員減でラインは確実に上がっている。2015年までの合格レベルでは厳しいと考えておく方が無難である。